

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援SHIP(児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	2026/3/1		~	2026/3/31
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2026/3/1		~	2026/3/31
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026/3/31			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	手厚い支援体制	職員1名に対し、基本は2名の子どもを担当するよう設定している。	・必要に応じて職員を増やし、子どもの支援に専念することができる体制を整えていく。 ・IT化や自動化を行い、事務的な業務の負担(内容的、時間的)を軽減する。
2	丁寧なアセスメント、実態把握を行い、個別活動を設定している。	終礼での記録について、子どもの支援の様子を詳細に記載する。個別支援計画の評価の前にアセスメントの見直しを行っている。	・アセスメントの内容について、より適切な物へ改善していく。(独自のアセスメントツールの作成)
3	専門的な研修の実施	児童発達支援SHIPで行う各活動の内容についての研修等を行い、各活動に活かすことのできる内容にしている。	・研修、実践を繰り返し行い、一人ひとりの職員の専門性を高めることができるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童館、フリースクール、放課後児童クラブなどとの子ども同士での交流が少ない。	事業所間での交流、やり取りをする機会が少ない。	積極的に連絡を取ったり、児童館の利用をしたりする等、交流につなげていく。
2	第三者評価をされていない。	第三者評価についての知識が浅い。	第三者評価について深く理解し、今後できるよう取り組んでいく。
3			